東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート
No. 123
2023年10～12月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。
当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2024.1.31-
HP https://www.shinkin.co.jp/toshin/

《今回調査のポイント》

● 10～12月期（今期）業況判断ＤＩ値 やや悪化で推移

10～12月期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比8.0ポイント低下の▲5.2とやや悪化し、前回予想値(2.4)に対しては7.6ポイント低下する結果となった。項目別では、売上･受注で7.9ポイント低下の1.4、売上数量も7.6ポイント低下の▲1.4、利益でも4.5ポイント低下の▲9.7と全項目で低下となった。

今年度、新型コロナウイルス感染症が5類に分類された影響によりＤＩ値がプラスで推移していたが、今期はマイナスに転じた。飲食業やサービス業の業況は良好に推移しているものの、各業種とも業況はコロナ禍前には戻っていない。エネルギー価格や原材料･仕入価格の高騰が続いている事から、各企業とも利益確保が難しい状況となっている。

業況お天気図

● 1～3月期（来期）各項目別ＤＩ値 悪化を見込む

1～3月期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比13.4ポイント低下の▲18.6と悪化の予想となった。項目別では、売上･受注で16.2ポイント低下の▲14.8、売上数量が16.2ポイント低下の▲17.6、利益でも10.7ポイント低下の▲20.4と総体的に悪化傾向である。

前回同様に「エネルギー価格の高騰」や「原材料･仕入価格のさらなる高騰」が高止まりしていること、今後も好転する見通しもないことが大きく影響。夏場の猛暑の影響を受けている企業、「2024年問題」や「人材不足」を懸念する業種も多数あり、総じて悪化の見通しとなった。

業況予想お天気図

お 天 気 図

好調 ← → 低調

（お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。）